
[成果情報名] アスパラガス栽培における立茎補助具の考案とその利用効果

[要約] アスパラガスの立茎時に使用する目印に、ポリプロピレン製の内径15mmのホースを2~3mm幅に輪切りにして切れ込みを入れた立茎補助具「アスパラリング」を用いると、親茎径が12.5mm程度で良く揃う。これを利用して立茎すると、個人による親茎の太さのばらつきが大幅に改善できる。

[キーワード] アスパラガス、立茎補助具、親茎径

[担当部署] 筑後分場・野菜チーム

[連絡先] 0944-32-1029

[対象作目] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

アスパラガス半促成長期どり栽培において、収穫後半の春芽に輪ゴムなどで印を付けて親茎として残す立茎作業は、収量を左右する重要な技術となっている。親茎は、成茎時の地際から5cm付近の太さを11~13mm程度に揃えることで収量が高位で安定するといわれている。しかし、生産現場での親茎の太さは、個人によりかなりのばらつきが見られ、収量格差の一要因となっている。

そこで、立茎時に使用できる「目印」と「スケール」としての役割を併せ持つ補助具を考案し、その実用性を検討する。

[成果の内容・特徴]

1 . 市販の内径15mmのゴムホースを2~3mm幅に輪切りにし、切れ込みを入れた立茎補助具「アスパラリング」を考案した。切れ込みが入っているため茎が太くなくても傷が付きにくく、立茎終了後に容易に回収でき再利用が可能である(図1)。

2 . 「アスパラリング」は、立茎時に親茎として残す若茎の目印となるとともに親茎の太さの目安となり、誰が立茎しても親茎が12.5mm程度でよく揃い、輪ゴムを使った慣行立茎法に比べて太さのばらつきが小さくなる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

1 . 収穫サイズの若茎に「アスパラリング」を掛けて、1~2mm程度の余裕を持って抵抗なく入るものを立茎すると太さ12.5mm程度になる。

2 . 親茎は、15cm間隔でうね長1m当たり10本を基準に、立茎開始から1~1.5カ月かけて立茎する。

3 . 糸が入ったホース(耐圧ホース)は固く、輪が戻らないため利用できない。

4 . 赤色のホースは、カラスが持っていく傾向にあるので避ける。

[具体的データ]

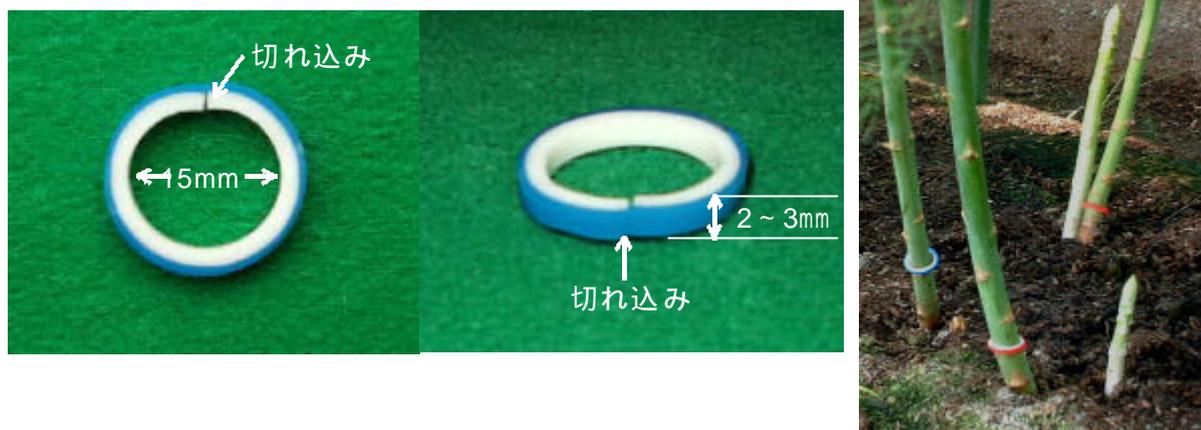


図1 考案した立茎補助具「アスパラリング」とその立茎の様子

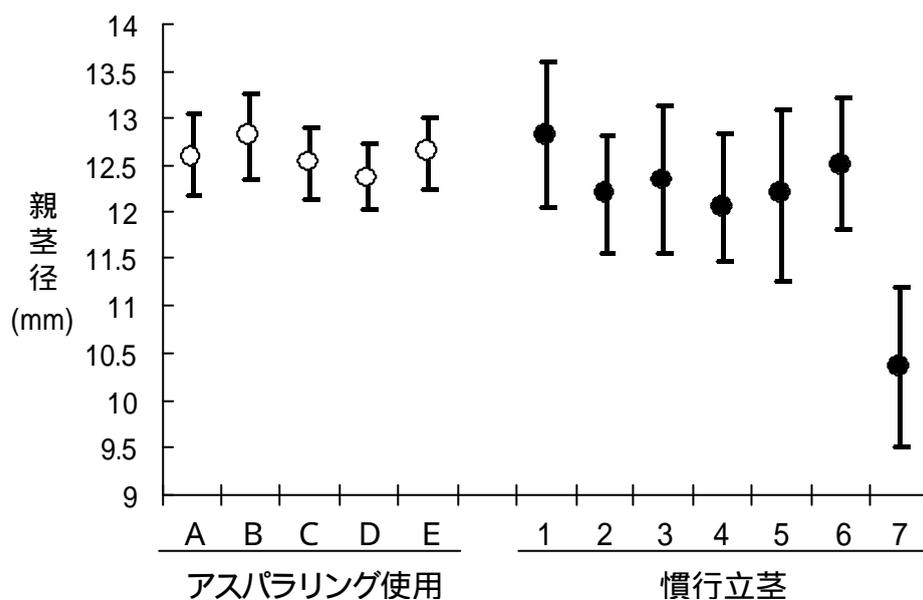


図2 立茎法の違いとアスパラガス親茎の平均長径とばらつき程度

- 注) 1. 被験者A、Bは立茎未経験者、C、Dは2年目、Eは5年目。
 2. 1~7は栽培6年目の農家。
 3. 調査は、一被験者当たり1カ所連続20本で3カ所行った。
 4. および は親茎の地際から5cm高における長径の平均を示す。
 上下の棒は信頼区間95%における上限および下限を示す。

[その他]

研究課題名：アスパラガスにおける減農薬・減化学肥料栽培技術の確立

予算区分：経常

研究期間：平成16年度（平成16～18年）

研究担当者：水上宏二、小田原孝治、兼子 明